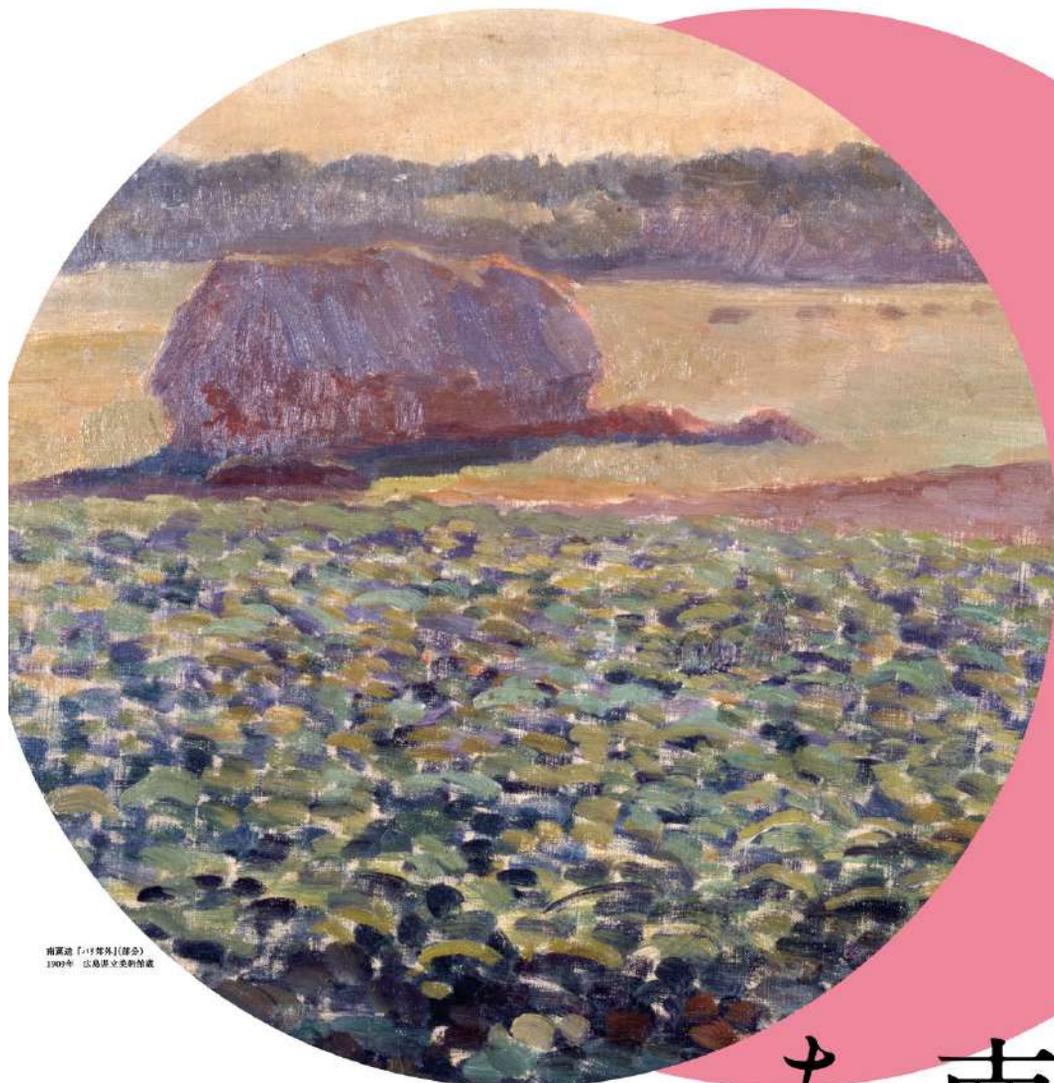


press release

COLLECTION EXHIBITION



春の所蔵作品展

南薫造「春の所蔵作品展」
1909年 広島県立美術館蔵

In Association with
“Minami Kunzo
Seventy Years On”

2021 4/29 Thu ▶ 7/4 Sun

〔開館時間〕9:00～17:00（金曜日は20:00まで開館）※入場は閉館の30分前まで

〔休館日〕月曜日（ただし5月3日、6月28日は開館）

〔入館料〕一般510(410)円／大学生310(250)円 ※（ ）内は20名以上の団体

〔縮景園共通券〕一般610円／大学生350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。

※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留學生の方などは無料（1階総合受付でお申し出ください）。



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒739-0014 広島市南区上郷2-22 tel.083-231-6156 fax.083-228-1644

2階展示室

<https://www.hpam.jp/>

ちなんで

南薫造展に

没後70年

【概要】

春の所蔵作品展「没後70年 南薫造」展にちなんで

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展では、4月20日から6月13日まで3階で開催の特別展「没後70年 南薫造」に寄せて、2階の5つの展示室でそれぞれの切り口により展示いたします。南薫造の親友・富本憲吉はじめ親交を結んだ陶芸家たち、作家が留学したイギリスで開催されたシュルレアリスム展、南と交流した洋画家たち、同時代の日本画、そして共通の交友関係をもった民藝運動の作家たち。ひとりの画家から広がる美術の輪を感じてください。

会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信などの関連イベントも開催して、さまざまな楽しみ方を提案します。

当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して皆様をお迎えしますの御理解と御協力をお願いいたします。来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年度の所蔵作品展にも御期待ください。

【彫刻展示室】富本憲吉とバーナード・リーチ、板谷波山 ～南薫造と親交を結んだ陶芸家たち～

この展示室では、画家・南薫造(1883-1950)と親交を結んだ陶芸家を集めます。

東京美術学校時代からの友人である富本憲吉(1886-1963)をはじめ、バーナード・リーチ(1887-1979)、板谷波山(1872-1963)の三名は、南とはジャンルは違いますが、互いの才能を尊重しながら交友を持ったことが、南自身の残した日記、書簡等により知られています。

「模様から模様を造る可からず」という信念のもと、独自の形と模様を追求した富本、日本やイギリスなど各地の伝統的な技法を取り入れて昇華させたり、卓越した彫りの技と豊かな色彩表現によって端正で格調高い作風を築いた波山。それぞれに優れた作品を生み出し、近代陶磁史に大きな足跡を残しています。

このたびの展示は、近代陶芸の巨匠三名の作品を、南との交流を示すエピソードや資料を交え紹介するものです。大作家たちの意外な一面に接していただけます。



富本憲吉《白磁壺》1928年

【第1展示室】ロンドン、シュルレアリスム国際展(1936)を想起して

「無意識」の世界に美を見出そうとしたシュルレアリスム(超現実主義)という芸術運動は、フランスの詩人アンドレ・ブルトンにより理論化されました。ブルトンによる『シュルレアリスム宣言』(1924)によって本格的な活動がパリで始まり、1930年代になるとヨーロッパだけでなく世界中でシュルレアリスム運動が花を咲かせます。

イギリスにおいては、1936年にロンドンで開催された「シュルレアリスム国際展」が、この芸術運動を広める契機となりました。シュルレアリスムの代表的な画家といえばサルバドール・ダリやルネ・マグリットの名が挙げられますが、この国際展では、企画委員のひとりである彫刻家ヘンリー・ムーアをはじめ、今日ではシュルレアリスムの枠内に収まらない作家(パウル・クレー、マルセル・デュシャンら)も多数出品しており、運動の広範さを感じさせる展示内容となっていました。

この展示室では南が画業初期にイギリスへ留学して研鑽を積んだことになみ、当時の資料を交えながら、この記念碑的な展覧会の出品作家を紹介します。

また、ムーアらと共に分野横断的な芸術グループ「ユニット・ワン」を結成したイギリスの作家、ベン・ニコルソンやバーバラ・ヘップワースの作品も併せて紹介します。



フランシス・ピカビア《アンピトリテ》1935年頃

【第2展示室】南薫造と交友の画家たち

この展示室では、南薫造と親しく関係を結んだ作家たちの作品を中心に御紹介します。

南が留学先をイギリスに決めたことにも関わりがあるのではないかと考えられる小林千古や、南と同じ年に生まれ、生涯を通じて交友のあった金山平三。それから、南よりも1級下でしたが水彩や版画も手掛け、南とも気安かった小林徳三郎。中西利雄は、南と一回りも違いましたが、水彩画の縁でしょうか、わざわざ、疎開していた南を安浦町(広島県呉市)に訪ねたりもしています。また、戦後、地域の文化復興に力を尽くしたいと南も参加した芸南文化同人会のメンバーからは、中心になった永瀬芳郎や機関誌「芸南文化」に多くの版画を提供した朝井清らをご紹介します。地域文化の牽引役と言えれば尾道にあって活躍をつづけた小林和作も、広島平和美術展や広島県美術展の開催に尽力するなど、南とともに、戦後広島文化復興に力をふるいました。その他、野見山暁治や新延輝雄など東京美術学校(現東京芸術大学)での南の教え子たちも個性豊かに育っています。

こうした、様々な時期にさまざまな形で南と関係を結んだ作家たちの作品を紹介することで、直接に、あるいは間接に、これらの作家に大きな影響を与えたであろう南の画業を感じてください。



南薫造《パリ郊外》1909年

【第3展示室】南薫造の時代—官展の日本画

南薫造は、留学から帰国した明治43(1910)年の第4回文部省美術展覧会(文展)に出品した《坐せる女》で3等賞を受賞して以降、官展(政府の主催する美術の公募展覧会)を中心に活躍しました。この展示室ではこれにちなんで、南と同時代に官展に出品された広島ゆかりの日本画を紹介します。

明治40(1907)年に初の官展として開設された文展は、幾度かの改革により、帝展、新文展となり、戦後は日展と改称され、民間の美術団体となりました。官展は新人の登竜門として美術界に刺激を与え、あるいは広く一般に美術への関心を喚起させるなど大きな役割を果たしました。再興日本美術院や二科会のような、官展に対立する団体が設立されたこともその影響の一端を示すものと言えるでしょう。このように官展は当時、日本の美術の中心にあり、その影響は絶大なものでした。

広島出身でこうした官展を中心に活躍した画家の中で、代表的な存在といえば、児玉希望とその弟子の奥田元宋です。児玉希望は大正10(1921)年の第3回帝展に初入選して以降、官展の中心作家として活躍しました。また、奥田元宋は、官展の流れをくむ戦後の日展で理事長まで務める活躍をしました。

この他、京都で竹内栖鳳に学んだ大村廣陽や金島桂華らも、官展を中心に活動し、高い評価を得ています。また、農民画家と呼ばれた和高節も、独学で官展に挑み、度々入選し、戦後も日展を中心に作品の発表を続けました。

一年に一度しかない発表の機会を捉えようと、情熱をこめて描かれ、時代の目に選び抜かれた力作の数々を紹介します。



大村廣陽《藤の花影》1926年

【第4展示室】河井寛次郎のしごと

この展示室では、画家・南薫造(1883—1950)と同時代に活躍した陶芸家・河井寛次郎(1890—1966)を特集します。

島根県の小さな港町安来に生まれた河井は、松江中学校時代に陶工になることを決め、その決意を修学旅行先の厳島神社に誓ったといいます。中学卒業後は東京高等工業学校(現・東京工業大学)へ進学、続いて京都市立陶磁器試験場へ入所し、2年後輩の浜田庄司とともに釉薬の研究に励みました。1924年に京都市五条坂に工房「鐘溪窯」と住居を構え、初期には中国や朝鮮の古陶磁にならった作品を発表し好評を博します。その後、浜田を介して思想家の柳宗悦と親交を結ぶと、ともに民藝運動を推進し、生活に根ざしたうつわを数多く生み出していきます。そして戦後は、既存の概念にとらわれない自由な作風に転じました。

当館は河井作品を64点所蔵していますが、このたびはその中から選りすぐりの約30点を公開します。浜田庄司や黒田辰秋など民藝運動に参画した作家の作品とあわせて紹介します。



河井寛次郎《青磁観音菩薩像》1918年

【関連イベント】

■ インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。

① 富本憲吉とバーナード・リーチ、板谷波山～南薫造と親交を結んだ陶芸家たち～

日時：2021年5月11日（火） 17:00～

講師：岡地 智子（当館学芸員）



公式Instagram

② 南薫造と交友の画家たち

日時：2021年5月25日（火） 17:00～

講師：角田 新（当館主任学芸員）

■ リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介するトークイベントです。（ワイヤレスガイド使用）

日時：① 2021年5月13日（木） 15:00～15:30

② 2021年6月3日（木） 15:00～15:45

場所：2階 展示室

講師：① 岡地 智子（当館学芸員）、山下 寿水（当館主任学芸員）

② 角田 新（当館主任学芸員）、神内 有理（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館学芸員）

定員：8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■ 対話型鑑賞

春の所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しながら鑑賞します。

（機材や接続環境、Zoomの操作につきましては、各自でご準備をお願いいたします。）

日時：① 2021年5月29日（土） 14:00～

② 2021年7月3日（土） 14:00～

ナビゲーター：森 万由子（当館学芸員）、岡地 智子（当館学芸員）

参加方法：① オンライン（Zoom） ② 2階 展示室 ※要入館券。会場入り口でお待ちください。

定員：① 6名 ② 8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

◎御来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。ご理解とご協力をお願いします。

■次に該当するお客様は、入館をご遠慮ください。

・発熱や軽度であっても咳、のどの痛みなどの症状がある方

■ご協力をお願い

・マスク着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット

・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。

・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。

・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる